

新たな集客ツール、シンククライアント

カフェ・カンパニー株式会社は、直営カフェにシンククライアントを導入し、集客率を伸ばしている



CAFE COMPANY

カフェ・カンパニー株式会社は、自社の立ち上げるブランドカフェ店内にシンククライアントを設置した。静かでスタイリッシュなマシンは店のモダンなデザインに溶け込み、ネットサーフィンに興ずる若者たちで席が埋まる。集客効果と運用の手軽さで、店舗スタッフにも好評だ。

HPお客様事例
カフェ・カンパニー株式会社
HP Compaq t5720 Thin
Clientを、来店客向けに
カフェに設置



達成目標

- 来店客への情報端末の提供
- 運用管理負荷の削減
- 新店舗への展開

アプローチ

- HP Compaq t5720 Thin Clientを採用
- 直営店17店舗で展開
- 店舗スタッフによる運用
- システム設定は専門業者に依頼

導入効果

- 顧客ニーズをとらえ集客率が向上
- スタイリッシュなマシンで次世代のカフェを演出
- 故障がなく業務負荷を大幅に削減
- 端末を販促メディアとして展開

カフェ・カンパニー株式会社

コミュニティ・アンド・ストアーズ株式会社をその前身とし、店舗設計と商業開発の2社を併合して2004年6月に設立されたカフェ・カンパニー株式会社。従業員数約450名を擁し、斬新なブランド戦略でSUS、246 CAFE<->BOOK、Planet3rd、WIRED CAFE、OCEANS BURGER INN、食堂居酒屋どいちゃん、Tokyo People's Cafe、3月にOPENした新店舗 A971 GARDEN<->HOUSEなど東京、大阪、神奈川を中心に直営店22店舗を展開する。

同社のプロジェクト推進室、マーケティングチーム長、林昌和氏は今回、渋谷のRESPEKTおよびWIRED CAFE、Planet3rd、246 CAFE<->BOOK、Tokyo People's Cafe、A971 GARDEN<->HOUSEにシンククライアントを導入した。Webにつながったシンククライアントを雑誌感覚で提供することで、すでに一部の店舗では集客効果が現れはじめている。商品プロモーションツールとしての活用も期待される一方、シンククライアントは故障が少なく運用が容易なため、店舗スタッフに好評だ。

シンククライアントの集客効果

渋谷区渋谷1丁目。コンバージョンされたモダンなビルの螺旋階段をのぼったところにその店はある。ゆったりした店内にはジャズの音色とともにヨーロッパ風の寛いだ空気が流れる。カウンター前には木造りの大きなテーブル。そこに数台のディスプレイが並ぶ。若い女性が数名、テーブルに腰掛け、ファッション雑誌でも楽しむようにWebサイトを眺めている。彼女らの見つめているディスプレイはHPのシンククライアントだ。

この店はRESPEKT。全国に直営店22店舗を展開するカフェカンパニー株式会社のカフェのひとつだ。このほかにも、コミュニケーションをテーマにした同社のカフェブランド、WIRED CAFE 10店舗、Planet3rd 3店舗、青山一丁目の246 CAFE <>BOOK、駒沢大学駅のTokyo People's Cafe、六本木のA971 GARDEN<>HOUSEにシンククライアントが入っている。「情報端末が来店動機になっているお客様もいらっしゃいます」とカフェカンパニー株式会社、プロジェクト推進室、マーケティングチーム長の林氏は、その集客効果を語る。実際、都心の店舗ではシンククライアントを入れてから、来店客が増えた。

故障ゼロで手軽な運用

以前は、頻繁な故障が悩みの種だった。もともと店舗用の端末として回線業者から供与されたPCを利用していたのだが、それがよく故障した。業者はサポートにあまり熱心ではなく、修理や交換にひと月以上かかることも。本来数台あるべきPCが1台しか稼動していないような状態では、とても顧客サービスにならない。

「しかし、シンククライアントになってからは、そういう悩みはなくなりました」と林氏は話す。シンククライアントは、ハードディスクをはじめ冷却ファンなどの駆動部がないため、静かで壊れにくい。現在、WIRED CAFEなどの店舗に合計で78台のマシンが稼動しているが、導入から数ヶ月、まだ故障は一度もないという。「『故障』といえば、一度だけコンセントが抜けていたことがありましたね」と林氏は笑う。

たしかに、忙しいカフェ経営では、こうした運用の手軽さは必須要件だ。社内にサポートを専門に行う部門がないため、次々と故障すれば、すぐにお手上げとなる。かといってサポートを外注すれば、今度は運用コストがかさむ。

「おかしくなったらいつでもスイッチを切るように言っています」。店内でのシンククライアントの運用法について林氏はそう説明する。スイッチを切って再起動すれば、システムはすぐにリフレッシュされる。直前までユーザが何をしようといつてもそれでもとの設定に戻る。「これなら現場のストレスはありません」

カフェのようなオフィス

シンククライアントをプロモーションに積極的に活用していく考えもある。待機中のマシンのスクリーンセーバーや、ネットへのアクセス画面にカフェのコンセプトに合った商品情報をさりげなく入れておくというアイデアだ。待機画面は必ず来



プロジェクト推進室 マーケティングチーム
チーム長 林昌和 氏

店客の目に入るの、使い方次第では地域ピンポイントの広告メディアのひとつとして使える。

現在ではこうした店舗内の活用に限られているが、本社まで導入を挙げればシンククライアントはもっと大きな威力を発揮する。ブレードPCと連動させて全社にクライアント統合(CCI)の仕組みを作っておけば、人事異動の際も、転勤先にデスクトップPCを移設する必要がなくなる。どこからでもシンククライアントで自分のデスクトップ環境を呼び出すことができるからだ。

将来構想について尋ねると、林氏は「オフィスのカフェみたいにしたいですね」といたずらっぽく笑った。窓際にテーブルをたくさん並べ、そこにシンククライアントを設置する。朝、出勤したらカフェのように誰もが好きな場所に腰をおろし、そこで仕事ができる、という業務環境。これは同社のようにプロジェクトベースで仕事を進める企業には最適だ。

そんな環境が実現するのはいつの日だろう。林氏にもまだその明確な答えはない。しかしカフェをコミュニティ創造のメディアとしてとらえ、ライフスタイルの視点から斬新な生活空間を生み出している同社の先進性を見れば、さほど遠い日のこととも思えない。その時、シンククライアントは集客力にプラスして、カフェカンパニーに新たな機動力をもたらすだろう。

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ

03-6416-6660 月～金9:00～19:00 土10:00～18:00 (日、祝祭日、年末年始および5/1を除く)

HPのデスクトップPC製品に関する情報は <http://www.hp.com/jp/desktops>

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。
記載事項は2007年3月現在のものです。
本カタログに記載された内容は、予告なく変更されることがあります。
© Copyright 2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.